

総合型選抜第1期【探究型】 評価の観点および基準

『評価の観点』

総合型選抜第1期【探究型】においては、志願者一人ひとりの探究的な取り組みと成果に対して、「①状況の理解、課題の設定」から「②情報の収集、整理・分析」「③仮説の形成、検討・立案」「④点検・評価、探究の省察」に至る各プロセス、ならびにそれら全体を通じた「⑤向き合う力、姿勢・態度」を観点とし、以下に示す『評価の基準』（ルーブリック）に基づいて評価します。なお、探究活動報告書による1次選考（書類審査）においては主に①～④、「口頭試問」による2次審査（面接）においては①～④と⑤に着目し、いずれも複数の採点者により評価・採点します。

【アドミッションポリシー】

生産工学部では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。このため、生産工学部では高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

<求める学生像>

- 豊かな知識・教養を身につけて高い倫理観をもって社会（日本社会・国際社会）に貢献することを目標とし、その目標に向かって自ら継続的に学修する意欲をもつ人。
- 問題発見及びその解決のために、必要な情報を収集・分析し、自らの思考力をもって、自らの考えをまとめ、表現しようと努力する人。
- グループやチームをととして自己を高め、さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で、経営や生産管理ができる技術者になろうとする人。

『評価の基準』（ルーブリック）

評価の観点	レベル5	レベル4	レベル3 ※ 基礎的なレベル	レベル2	レベル1
① 状況の理解 課題の設定	本学部の【アドミッションポリシー】および<求める学生像>に基づき、各観点において期待するより高度なレベル	現状と問題、背景等を理解し、 <u>既存の知識や経験等を概念的に関連付けて</u> 、理想や目標とのギャップ等に基づき課題を明確に提起している。	現状と問題、背景等を理解し、 <u>理想や目標とのギャップ等に基づいて課題を明確に提起している。</u>	現状と問題、背景等の理解 <u>または</u> 課題の提起が不十分である。	現状と問題、背景等の理解 <u>および</u> 課題の提起が不十分である。
② 情報の収集 整理・分析		問題解決に向けて適切な方法により情報を収集し、それらの信頼性を考慮したうえで、 <u>相互の関係性等を考察して体系的に整理・分析している。</u>	問題解決に向けて適切な方法により情報を収集し、それらの信頼性を考慮して整理・応用している。	問題解決に向けた情報の収集 <u>または</u> 整理・応用が不十分である。	問題解決に向けた情報の収集 <u>および</u> 整理・応用が不十分である。
③ 仮説の形成 立案・検討		知識や経験、情報等に基づいて因果関係等の仮説を形成し、実現可能性を考慮した独自の解決策を <u>必要な条件や具体的な手順等と合わせて提示している。</u>	知識や経験、情報等に基づいて因果関係等の仮説を形成し、 <u>実現可能性を考慮して独自の解決策を立案している。</u>	知識や経験、情報等に基づく仮説の形成 <u>または</u> 解決策の立案が不十分である。	知識や経験、情報等に基づく仮説の形成 <u>および</u> 解決策の立案が不十分である。
④ 点検・評価 探究の省察		仮説や解決策の妥当性を客観的に点検・評価し、 <u>探究活動より得られた気づきや学びを新たな経験または問題解決等に応用しようとしている。</u>	仮説や解決策の妥当性を客観的に点検・評価し、 <u>探究活動の全体を振り返って新たな気づきや学びを得ている。</u>	仮説や解決策の点検・評価 <u>または</u> 探究活動全体の振り返りが不十分である。	仮説や解決策の点検・評価 <u>および</u> 探究活動全体の振り返りが不十分である。
⑤ 向き合う力 姿勢・態度		探究活動を通じて、主体的に問題と向き合い、 <u>課題の設定・解決に向けて積極的に学びを深め、成長しようとする姿勢・態度が見られる。</u>	探究活動を通じて、主体的に問題と向き合い、 <u>課題の設定・解決に向けて学びに向かう姿勢・態度が見られる。</u>	探究活動を通じて、主体的に問題と向き合い、課題の設定・解決に向けて学びに向かう姿勢・態度が不十分である。	

※「基礎的なレベル」とは、探究活動報告書および口頭試問における基礎的水準であり、合格の基準を示すものではありません。